

6月29日(金)~7月27日(金) 満月セレクト

— 今回のセクター ご紹介 —

Music Selector : 松永 誠剛

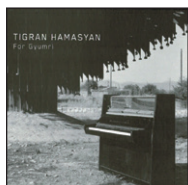


松永 誠剛

1984年生まれ、福岡出身。高校生の時にリチャード・ボナの音楽に出会い、ベースを始める。2003年ニューヨークにてマシュー・ギャリソンのもとで学び、その後デンマークにてコントラバスを学ぶ。「日本の音の追求」のために南アフリカからインドまで世界中のさまざまな国で演奏活動を行い、エンリコ・ラヴァ、カイル・シェパード、ピアンカ・ジスモンチなどと共演、活動を行う。近年は宮古島の歌手、與那城美和とのMyahk Song Bookのプロジェクトを通じて、歌の記憶の源流を辿っている。演奏家としてだけでなく、舞踏作品の音楽、ライナーノーツや新聞での連載など執筆活動も行ない、沖縄や佐賀のホールで音楽ディレクター等を務める。2009年に自身の故郷である古民家を「SHIKIORI」と名付け、畑と音楽に囲まれ、世界中から集まる人々と対話を重ねている。

今回のセレクトCD

1.



Tigran Hamasyan / For Gyumri (Nonesuch / 565456-2)

アララト山の麓、アルメニアに生まれたピアニスト、ティグラン・ハマシアン。自身の故郷である、アルメニアの都市ギュムリで1988年に起こった大地震で被災した人々に捧げられた作品です。楽曲によってグランド・ピアノとアップライト・ピアノを使い分けて録音されています。”失われた音を求めて”、ティグラン・ハマシアンの響きの探求は続きます。

2.



Bobo Stenson Trio / Contra Indecision (ECM / ECM2582)

キース・ジャレットと双壁をなす、北欧のピアノの巨人ボボ・ステンソン。コントラバスのアンダーシュ・ヤーミン、ドラムのヨン・フェルトというトリオのメンバーとともに、キューバのシルビオ・ロドリゲスの楽曲から、サティ、バルトークまで幅広い作品を取り上げています。彼らの音楽を聴くと、森の中にいるような穏やかな気持ちになります。

3.



Kyle Shepherd Trio / Dream State (Sheer Sound / SLCD 301)

“アフリカン・ピアノの継承者”、カイル・シェパードが自身のトリオにサックスのバディー・ウェルズを加えた編成。コイサン族の音楽からタウンシップまで、南アフリカの大地と歴史の影響を色濃く受けた作品です。彼のピアノの響きを聴くたびに、人類の原点にある祈りのようなものを感じます。

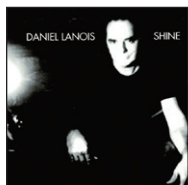
4.



Silvio Rodriguez / Rabo de Nube (Fonometric / CD-8033)

キューバのシンガー&ソングライター、シルビオ・ロドリゲス。スペイン語の歌詞を直接的には理解することはできませんが、いつも聴いているアルバムです。ボボ・ステンソンやチャールズ・ロイド、また、僕自身も彼の楽曲をライブでカバーすることが多く、世界中の音楽家に共感されている音楽家です。

5.



Daniel Lanois / Shine (Epitaph / EICP204)

U2、ボブ・ディランなど数多くの作品をプロデュースしている、ダニエル・ラノワ。僕自身、彼の生み出した作品の響きを幼少期から無意識に聞いて、育っていました。エミルー・ハリスやボノも参加している、儚くも美しい響きの作品です。